

# 北海道天売高校 連絡船

## 第6号



雪が降って、天売島もすっかり冬になりましたが、生徒達はとても元気に頑張っています！

## バドミントン教室 ～楽しさを伝えたい～

天売体育協会主催のバドミントン教室が10月29日（日）に開催されました。

今年は、天売高校バドミントン部、天売中学校バドミントン部の生徒が小中学生、地域の方を対象にバドミンの技術や楽しさを伝えました。

小学生8名と地域の方1名の9名が参加し、中学生によるフットワークの練習や高校生による基本的なラケットの振り方などの基礎から、後半には中高生による応用練習を行い、最後には試合形式の練習を行いました。

バドミントン部の5名には、『バドミントンを



教える』という経験を日々の部活動と結び付け、次年度の定通体連に向けて頑張ってもらいたいです。

繰り返します。乾燥したら、中骨除去・整形・真空パック作業を行ってすべての工程が終了です。

1年生は初めてのスモークサーモン実習でしたが、2年生に教わりながら協力して作業を進めました。生徒の頑張りのかいあり、旨みが凝縮した美味しいスモークサーモンが完成しました。

生徒は「初めてですごく難しかったが、上手にできた」「来年もおいしいスモークサーモンを作りたい」と充実した様子でした。

## 水産クラブ研究発表大会 ～天売100%ウニふりかけ～



11月7日（火）、8日（水）、小樽にて開催された第38回北海道高等学校水産クラブ研究発表大会に本校を代表し、2年生の菅原夏夜さんと三浦玲奈さんが参加してきました。研究テーマは「天売100%」です。

今年度は、天売島を代表する味覚の一つである「キタムラサキウニ」にスポットを当て食品研究を行いました。ここ数年漁獲量が減少し、高価な「キタムラサキウニ」ですが、天売島外の人たちにもこのおいしさを味わって欲しいという思いから、おいしく且つ低価格にて多くの方に食べてもらうために、「ウニ塩」・「ウニふりかけ」の2商品の研究を行いました。食材は天売のみということにこだわり、試作を繰り返し、天売島の魅力を存分に出せた食品ができました。今年度の研究を終え、菅原さんは「効率的に作業することができ、少ない時間の中で良いものがつくれた。」と振り返っていました。

## 水産実習 ～スモークサーモン造り～

10月14日（土）に、天売学の一環として水産実習「スモークサーモン」を実施しました。赤ガレイ燻製、タコ燻製に続いて、3回目の燻製づくりです。材料はベニザケを使用し、すべて手作業で行いました。



作業工程は、まずベニザケのうろこをきれいに取り除き、3枚におろして魚体を洗浄し

ます。続いて調味料とともに水の入った樽に1日漬けこみ、網に広げて風乾と燻乾の作業を交互に



## 学校開放講座 ～「誰でもできる燻製講座」～

10月15日（日）に、本校の山本大輔教諭が講師となり、燻製講座を実施しました。

受講者は20名、小中学生から大人まで幅広い年齢層でした。

最初にあらかじめ燻製しておいたナッツ、ミニトマト、鮭ハラスなどを食べながら燻製の基礎知識をパワーポイントを使って学んだ後に、家庭科室に移動して実習に入りました。

実習は3人1組で、フライパンを上下組み合わせたものと100均で売っている網を使用して行いました。各班ごとに鶏手羽、卵、チーズ、ウィンナーの4種類を燻製しました。

フライパンにアルミホイルを敷いてスモークチップをひとつまみ入れ、その上に網をのせて食材をのせます。その上から蓋代わりのフライパンをかぶせ、火をつけます。煙が出てきたら弱火にして7分ほどでチーズを取り出します。燻製したてのチーズは中がトロトロで美味しくいただけます。

一番時間がかかるのは鶏手羽なので最後まで取り出さずに熱を中まで通します。



参加者は家にある材料で手軽に楽しめる燻製に興味を持ってくれたようです。

参加者は家にある材料で手軽に楽しめる燻製に興味を持ってくれたようです。

天売は、海産物が新鮮で美味しいので、「焼く」「煮る」だけでなく「燻る」を調理方法に加えると更に美味しく頂けると思います。

## 天売学 ～天売の産業Ⅱ～

10月21日（土）に行われた天売学「天売の産業Ⅱ」。

この日は漁業を営んでいる北るもい漁業協同組合理事奈良清志さんに、天売の産業について講演していただきました。自分だけがたくさん獲るのではなく、天売の漁師全体のことを考えて、船団操業をして、皆で協力していること。



コンピュータでレーダー解析を行い、漁場のデータを蓄積し、効率化も図っていること。

また、天売は海鳥の楽園というだけあって、漁をしていると、魚を追って海鳥が網にかかってしまうらしく、海鳥が網にかからないように細工したものを使って鳥を保護する研究や、アザラシにGPSを取り付け、その生態を解明する研究の手助けもしていること。このように、

また、天売は海鳥の楽園というだけあって、漁をしていると、魚を追って海鳥が網にかかってしまうらしく、海鳥が網にかからないように細工したものを使って鳥を保護する研究や、アザラシにGPSを取り付け、その生態を解明する研究の手助けもしていること。このように、

天売全体で協力して、将来を見据え、資源保護を視野に入れた漁業の在り方について模索しているというお話でした。

漁業を営むだけでも大変であるのに、天売の漁師さんたちは、いろいろなことに挑戦していることがよく伝わりました。最後のまとめで、奈良さんが「根性を持ってあきらめずに、意志を貫く。漁師は皆そうだ。」と力強く話して下さいました。

## 生活体験発表大会 ～全道大会の結果～

10月24日（火）に札幌教育文化会館にて開催された第61回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会に空知地区代表として、2年生の三浦玲奈さんが参加してきました。題は地区大会同様「後悔しないために」です。

天売に生まれ育った三浦さんが、友達のこと、



職場のこと、部活動のことと一つ一つを振り返り、そこから感じとられた「自分なりの後悔しないための思い」を切々と訴えました。

各支部の代表は、全国代表を決める大会だけあって皆溢れんばかりの表現力。一人3分間のリハーサルでも十分その凄さは伝わりました。そこで、三浦さんも気合が入ったようで、本番は今までにない、最高の出来栄え。でしたが、最後のほうで不安に駆られ、原稿を見てしまい、更に読むページをパラパラめくって探し、空白の時間が…。

しかし、結果は上位者から最優秀賞・優秀賞・奨励賞が贈られ、みごと奨励賞をいただきました。ミスがなければという思いも、三浦さんの心中にはあるのかもしれませんが、全力を出し切ることができた、良い大会であったと思います。これからは活かしていくことを期待したいです。

## 図書の紹介 ～映画化される本から～

### 羊と鋼の森 宮下 奈都



北海道の田舎で育った青年がピアノの調律に魅せられて調律師を目指す物語です。冒頭の文から一気に物語の世界に引き込まれました。抽象的な表現が多くても、なぜか一文字一文字を丁寧に読みたくなってしまふ不思議な作品です。主人公が誠実に調律という仕事と向き合っていく中で、自分の目指すべきものを探していく姿がとても勇気づけられます。様々な賞を受賞していたり、2018年に実写映画化されることですが、それを抜きにしても必読の本だと思いました。